

JCC第7回総会 農業クラウドWG 活動ご報告

2013年12月16日

農業クラウドWG主査

(富士通株式会社 イノベーションビジネス推進本部シニアマネージャー)

深谷 朋昭

農業クラウドWG活動経緯

■2011年3月発足

■発足以来、14回WG開催

**■自治体が農業クラウドのサービス主体となる
事業モデルを提案**

主旨

- ・食農ステークホルダの情報共有**
- ・生産者の生産力経営力を高める支援**

*** 地域農業経営力向上に向けた共通基盤(仮称)**

地域農業振興（農業の持続的経営）に向けたプラットフォーム

目指す姿

- ・持続的農業経営の実現
 - ・もうかる農業の実現
- 地域活性化

現状の課題

- ・就農人口の減少 担い手・継承者育成
育成期間短縮/早期収益化
- ・勤と経験の農業 生産・栽培ノウハウの共有・継承
- ・耕作放棄地 専門家によるアドバイス
- ・地域ブランド減少 農地集積化

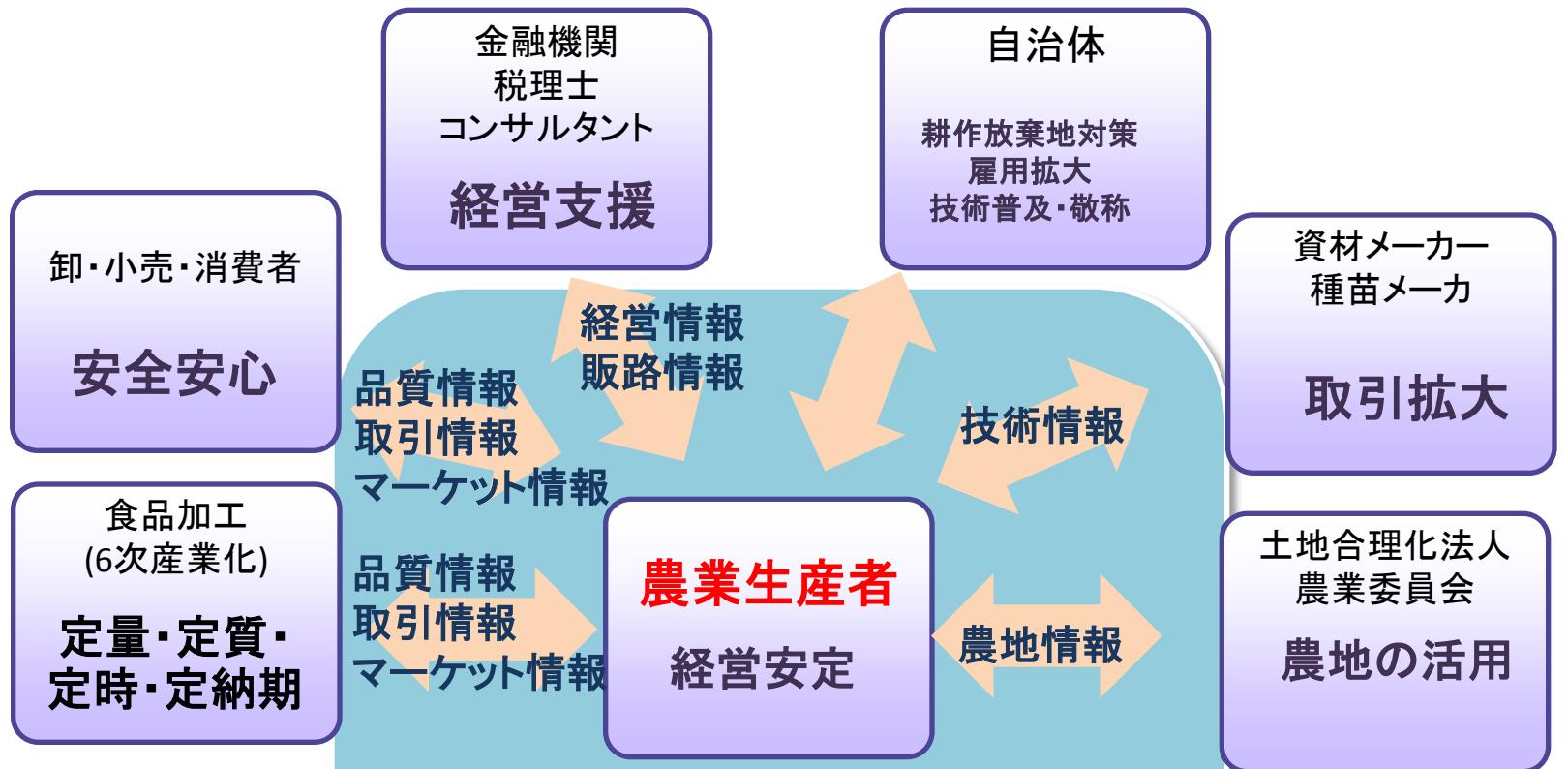
ステークホルダー

- ・農業生産者(農家、農業法人、JA等)
- ・食品加工
- ・卸・小売・消費者
- ・金融機関
- ・自治体等公(普及センター、地域振興局、試験場等)
- ・資材メーカー

アプローチ

- ・6次産業化/農商工連携
 - ・バリューチェーン構築
 - ・生産/販売の効率化
- 情報活用による課題解決

地域農業を支えるステークホルダーのニーズ



ステークホルダーの**相互発展**に寄与する情報の
収集、蓄積、分析、提供するために
共通で使える仕組みが必要

共通基盤を地域農業経営力向上事業(仮称)として
自治体直轄事業で推進する事をご提案

ジャパネットクラウドコンソーシアム農業クラウドWG
会員が地域農業振興のための農業情報流通の
仕組み構築をお手伝いさせていただきます。

これまでの活動と今後の活動計画

2011年

- ・課題整理
- ・自治体、生産者ヒアリング

2012年

- ・前年度の議論を踏まえたWG活動

- ・農業クラウド（他サービスとの連携含む）の普及に向けた検討

2013年

- ・自治体の農業振興政策状況

- ・自治体への提案内容の検討と提案活動

- ・自治体向け標準提案書

2014年

- ・夏の総会を目処にWG活動の取りまとめと報告

2011～2013年活動 総括

自治体向け直轄事業としての農業クラウド

□地域ブランド強化に向けICT活用に関心が高まり、
実証事業を実施する自治体も(補正予算を組む等)

□財政的、投資対効果が不明等の理由により自治体の
役割はモデル事業の実施までとの意見が多い

□自治体向け農業クラウド着手には更なる検討が必要

□当初設定した3年間の活動は一定の成果を見た

□今後は各社ビジネスのフェーズ

WG活動を通じての気づき

農業クラウドを取り巻く動向、課題、ニーズ(1)

■個人生産者の現状

- コスト管理や生産工程の管理等の重要性を認識している生産者は少数。
⇒小規模経営で手作業で対応しておりICTは不要。
- 月額1000円以下の利用料でないと負担できない。
- 取引拡大に向けたICTに期待。

■生産法人の現状

- 農地拡大、生産品種拡大、安全安心への対応など、個人対応の限界。
- 生産工程管理、コスト管理、人材育成に関心あり。
- 特に経験と勘に頼ってきた作業の標準化やマニュアル化にICTを活用できないかと期待を持つ。

農業クラウドを取り巻く動向、課題、ニーズ(2)

■農産物の買い手(小売事業者等)

- 契約栽培でも、気象条件等により契約内容との齟齬が発生。⇒ICTを活用して管理出来ればと期待。
- 農薬肥料の適正な使用状況を確認したい。

■自治体

- 首長主導の地域ブランド強化の取組推進。
- 上記の一環で、改革ツールとしてICT活用を意識した事業の予算化に向けた検討を開始。
- 一方で自治体の役目は生産者への定着を促進する補助/モデル事業までという認識も強い。
- 本WGで狙いとしてきた、自治体が事業主体となる形での農業クラウド導入は実現せず。

農業クラウドを取り巻く動向、課題、ニーズ(3)

■政策動向

- ・農林水産省などで農業改革を実現するICT事業が大幅に増加。

■標準化

- ・施設園芸では産官学連携のオープンプロトコル「UECSコンソーシアム」設立。
- ・センサーからクラウド間のネットワークに関する検討等は震災復興事業として実施。

■海外動向

- ・海外、国内企業から問い合わせあり。
 - 現地の農業事情(生産者、流通体制 etc)
 - 現地のICT事情(ネット、クラウド etc)

農業クラウドを取り巻く動向、課題、ニーズ(4)

■ICTベンダから見た農業ビジネスの課題

- 農地は流動性が低く担保となりにくいことから、農業事業者とビジネスをする際に、社内において与信審査が通りにくい。
- ビジネス領域を模索中(分野、顧客 etc.)
- 低価格、ノン営業のソリューションサービスは構築できていない。
- クラウド+SIでは従来のビジネス構造と変わらない懸念

今後のWG活動について

■今後のWG活動

- 愛媛県よりWG開催の招聘あり。
⇒2014/2/14訪問予定。
- WG活動を通し、自治体、生産者の実態やニーズを把握
⇒WG活動とビジネス化との乖離に各社（各個人）が戸惑い。
- 3年間という期限付きで検討をスタートした背景もあり、これまでの検討で当初の目的はほぼ達成。
- ここまでの成果を整理し、取りまとめるフェーズ。

⇒2014年夏の総会にて、これまでの活動報告を実施

JCC農業クラウドWG報告書(主査案)

- JCC農業クラウドWG活動総括
- 農業を取り巻く国内環境、国際環境
- WG活動テーマの紹介
- WG活動記録
- WGから自治体への提案書
- 生産者、自治体ニーズ
- 農業の改革に向けたICTの課題、方向性などの考察
- 会員各社の農業分野サービス事例